



専門学校で特待生入試を実施します

順正高等看護専門学校（4月から順正高等看護福祉専門学校に校名変更）は、新設の介護福祉学科で、2種類の特待生入試を実施します。年齢制限はありません。もっと勉強したい、介護福祉士の資格を取得したいという方の出願をお待ちしております。なお、平成24・25年度入学者は国家試験が免除され、卒業と同時に介護福祉士の国家資格が取得できます。

1. 高梁市市民特別入試

入学金28万円全額免除。2年間の学納金相当額（160万円）が免除となります。ただし、高梁市介護福祉士養成奨学金および本校特待生制度の併用入試のため、卒業後、3年以上、高梁市内の事業所において、介護福祉士として勤務することが条件となります。なお、高梁市をより住みやすい地域にしたいと願っている人で、1年以上高梁市に住居登録していることが出願資格に必要です。

2. 特待生入試

入学金半額免除。授業料全額免除（施設設備費は別途必要）となります。実際の学費は初年度が入学金14万円＋施設設備費20万円で合計34万円。2年目は、施設設備費20万円のみです。

◎選考方法および募集人数

・選考方法は評価資料（出願書類に同封）と面接です。募集人数は10名です。

出願期限（消印有効）	試験日	合格発表日	入学手続締切日	試験会場
2月20日(月)～3月8日(木)	3月14日(水)	3月21日(水)	3月30日(金)必着	本校

介護福祉士に求められるサービスが多様化する中、専門知識や技術の習得はもちろん、介護を必要とする方の気持ちを理解し共感できる心豊かな人間性が求められています。本校では、個人指導に力を入れ、教員と学生のふれあいの中で、豊かな人間性を養う教育を目指します。出願に際しましては、まずは順正学園入試広報室までご連絡ください。

■問い合わせ 順正学園入試広報室 (☎7178、FAX 0768)



地名

八十 中井町 折瀬戸・狭門

今回取り上げる地名は、中井町にあって古くから「郷土の名勝地」として紹介されていた二カ所の景勝地を取り上げ、今一度郷土を考えていただくよすがとなればと思うのです。二カ所とは「折瀬戸」（おりせんと）と「狭（峡）門」（はざま）であります。中井町のこの付近は、新世代第三紀中新世の末期（約七〇〇万年前）に形成された吉備高原にあって、古生代の石炭紀末（二億八千万年前）



中央の山すそが「折瀬戸」。左がシジマキ山

に形成されたといわれる「川上台」・「成羽台」に続く「草間台」という石灰岩台地の一部に当たる場所、上野上・上野下付近には、カルスト地形（石灰岩地形）が広がり、ドリーネ（すり鉢状のくぼ地）や台地から水が地下へ吸い込まれている穴（ポホール）や鍾乳洞などが見られる地域になっています。山々や石灰岩の台地は、数百メートルも浸食され、V字の形となった川や谷は谷壁が切り立った石灰岩の壁となつて、峡谷地形を作り出している場所です。いずれも名勝地になっています。その一つ「折瀬戸」は、西方の花木から佐伏川にそって北にはいると上野下の集落が石灰岩の分布する急斜面に点在し、その左側には、やはり石灰岩のシジマキ山（標高四〇〇メートル）があります。この山すその森には、応永二年（一三九五）創立と伝えられている三座神社が鎮座して、拝殿には、小野小町などが詠んだ和歌を絵入りで奉納されたものが残されています。佐伏川は、新見市豊永佐伏付近から石灰岩台地を流れ出て津々川と合流して高梁川へ流れ出る川で、高梁市と新見市の境になっています。中井町上野下の集落がとぎれる当たりからシジマキ山を右に迂回して流れる場所は、石灰岩が切断曲流となり、深い谷壁をつくっています。付近は風光明媚な「折瀬戸」という景勝地になって「上房郡史」に「佐伏川の沿岸を云う。地・人・煙絶え兩岸狭ま

り、石灰岩の絶壁高さ幾十丈、（略）：時に彌公（さる）の葛蘿を攀つるあり、鴻雁の緑水に浮かぶあり、（略）：夏日釣魚の楽、秋日紅葉の景に至りては実に名状し難く仙境と云うべきなり。」と「折瀬戸」の風景をたたえています。また、与謝野晶子もこの地を「断石の溪（石灰岩の溪谷）」として歌に詠んでいます。もう一つの景勝の地「狭門」（拙稿「地名さんぽ 狭門」参照）は、高梁川の支流津々川にそって街村となつている西方や鍛冶屋の集落を見下ろす位置にあり、向かつて右の大師嶽（峽門山）（三七九メートル）とその西側に位置する芋岡山（三九二メートル）の二つの山は石灰岩で被われ、険しく屏風のように切り立ち、石灰岩の山肌が露出している山で、ふもとの市場や鍛冶屋の集落を見下ろしています。大師嶽と芋岡山の二つの山間の谷間付近一帯を「狭門」と呼んでいます。狭門山といわれる麓には、薬師堂や大師堂が祭られ、左手に念珠、右手に金剛杵を持つ文政一年（二八二八）銘の弘法大師座像石仏が祀られていて、ここを起点にそそり立つ裏山は八十八カ所を巡拝する霊場となつていて、大師信仰の山として、行場として、信仰されていた場所でもごとの景勝地となつています。「上房郡誌」や「岡山県名勝誌」にも「狭門」として紹介されています。「岡山県名勝誌」は、「西方字市場に在り、両側は石灰岩の絶壁にして、その間に経路（小路）迂回して通ぜるあり、



左の芋岡山、右の大師嶽に挟まれた「狭門」

八十八カ所の弘法大師なるものの石像を遥（みち）傍に安置せり。この辺秋候月色の景にして賞翫するに足るべく、峽傍楓樹多く秋色爛然るとき紅錦を織りなせるを眺むるも亦佳なり。」と紹介されています。「折瀬戸」という地名は、「折」は傾斜地や崖を意味し「瀬戸」は地峡とか、両側に山が迫つた狭い谷間、狭処を意味する地名なのです。また「狭（峡）門」は、山と山に狭まれた狭いところ、狭間、迫などと同じ意味で谷間の地形を表す代表的な地名で狭いところを示す地名なのです。「折瀬戸」も「狭門」も自然地名の代表的なもので、地域の名勝地となっている場所なのです。（文・松前俊洋さん）

成羽病院通信

CT検査とMRI検査の違いは？

アドバイザー・小林博文 放射線室長

CT（コンピューター断層撮影）検査
X線使用
撮影時間が短い（例…頭部15秒、胸部20秒）
頭部（脳出血）
胸部、肝臓～腎臓などの検査
装置の高速化と進歩で立体像も可能

MRI（磁気共鳴画像診断）検査
磁力＋電磁波
撮影時間が長い（例…頭部30分、腹部、胸部40分）
頭部（急性期脳梗塞）、脊椎、関節などの検査
任意断面が撮影可能 検査中の音が大きい
造影剤を使わずに血管等の検査が可能

日本人の死亡原因の第3位は脳卒中となっています。脳に出血が疑われる場合はまずCT検査をします。検査時間が短く、出血性の病気の診断に優れています。CT検査で脳梗塞の疑いがあれば次にMRI検査をします。特に急性期脳梗塞にはMRI検査は欠かす事ができません。CT検査・MRI検査それぞれ長所短所があります。脳卒中の疑いがあれば、すぐに受診して症状や状態により診断に適した検査を受けてください。急性期の脳梗塞の場合3時間以内に処置をすれば、回復する率も高いと言われています。当病院でも脳ドック検査をしています。
※：MRI検査は心臓ペースメーカー、体内に金属のある人は検査できません。

■問い合わせ 成羽病院事務局 (☎3111)